

平成28年度 自己評価結果

認定こども園あいしゅう幼稚園（教育職員自己評価）

平成29年6月1日

1. 園の教育保育目標

子どもが主人公である認定こども園を基本とし、日々の遊びや保育園での生活をとおして園児一人ひとりが心身共に満たされるような支援を行い、園児の自立や豊かな感性が育まれる教育・保育を目指す。

2. 本年度の主たる目標と計画

- ・ 新幼保連携型認定こども園教育保育要領の改訂部分を十分に理解し、本年の指導計画策定においても保育教諭他園のすべての職員が共通認識をもって取り組めるようにする。
- ・ 自己評価結果項目を評価して振り返るだけでなく、教職員が共通理解を持ち、使ってみることで、その共通性や考え方の違いに気付き、保育教諭はじめ職員間の対話が始まるよう活用する。
- ・ 保育教諭としての専門性に関する研修に参加し、自分なりの幼児観、教育観、保育観について客観的に見つめる力を身に付ける。

3. 評価結果と取組状況

	評価項目	取組状況
1	教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	園の教育保育理念と新しい幼保連携型認定こども園教育保育要領を全職員で再確認し、園長、主幹保育教諭で教育課程のねらいを立て、それに基づき指導期間ごとの内容を検討する。
2	教育指針・教育課程・子どもの実態等を基に教育保育計画を作成する。	新しい要領を基に、各項目に対する教育保育計画を、各学年の担任が作成し、指導期間ごとに加筆訂正を行う。
3	子どもの安全を最優先に子どもの側に立った指導計画を作成する。	みんなで作成した防災マニュアルや防犯マニュアルについて、実際の避難訓練や防犯訓練の結果に照らして、不具合を修正する。
4	教育保育の質の向上のために、園内の意見交換を充実させる。	毎月の職員会議に加え、各行事の反省会等において、進行役を交代で行うことで、みんなが意見を出せるようになってきた。
5	保護者に対して共感的態度で接し、要望・苦情に適切な対応を図る。	子育て経験のない保育教諭が保護者を納得させるには、保育教諭としての専門性やカウンセリングなど、日ごろから様々な研修に参加するようにし、自己啓発に励むことが必要である。
6	園舎等の施設設備について安全点検の体制づくりを確認する。	遊具のねじの緩みや、棚などのコーナークッションがはずれていないか。また、空気清浄機等の保護柵等が壊れていないか等チェックをする。

4. 総合的な評価結果

保育教諭として自己評価に取り組んだが、はじめは実感が湧かなかつたが、その他の項目を含めて点検する中で、自分の保育教諭としての甘さや課題が具体的に浮かびあがるようになって来た。しかし、子育て支援等において、家庭の子育てに真剣に悩む保護者へのケアに真剣に取り組むには、園内研修のみならず、専門的な研修の習得が更に必要であると痛感した。